

東京家政大 ○神田和子 湘北短大 本田雪子
東京農工大 木下陸肥路

目的 大裁長着の衿の縫製について一連の研究をしており、今回は社先の位置と前身幅との関係について検討をし、社先点での身頃の衿付け線の傾斜寸法が最も前身幅に影響することを見いだした。今回は社先位置の移動が衿付けの縫い込み具合に影響するので、縫い代の処理の難易度を数値化し、社先位置とその難易度との関係および布地の特性と難^易度との関係を究明する。

方法 社先での傾斜寸法は、零から身頃の衿付け線と社の衿付け線が一直線になるまで変り得る。衿付け縫い代の処理の難易度は身頃の縫い込みを衿になじませる度合を表現しており主として傾斜寸法によって決まる。そこで傾斜寸法の相違によるこの難易度を製図上で社先の緯糸の寸法変化からなじみ率としてとらえ、これを数値化する。縫製例として和服地数種を用いて傾斜寸法を零から最大値まで5段階に衿付けを製作した。縫い込み処理後の社先での緯布目の移動角を写真撮影によって測定しこれを実際の縫い込み処理の難易度と看做して、数値化による難易度と比較検討する。

結果 1) 製図上の縫い代処理のなじみ率は傾斜寸法の相違による難易度をよく表わしている。一例として上り衿肩明き88mm、社先寸法220mmの場合について示せば、傾斜寸法を0、124、404、480mmとした時のなじみ率は37.7、27.2、14.2、8.6、0%である。
2) 実際縫製の衿付け縫い込み処理後の緯布目の移動角は傾斜寸法に影響され、かつ布地の種類によっても異なる。この移動角と製図のなじみ率との間にはよい相関がある。